

1. 山口城跡を発掘しました！

調査主体者：山口県観光スポーツ文化振興課

場所：山口市滝町1番1号（山口県庁内）

期間：令和5年7月18日～8月7日

主な成果

- ① 埋没土塁の発見
- ② 幕末の土木技術の解明



山口城跡略年表

| | | | |
|-----|------|-------|---------------------------|
| 文久3 | 1863 | 7月 | 山口移鎮(萩から山口へ庁舎等を移転すること)の公示 |
| | | 8.18 | 8月18日の政変 |
| 元治元 | 1864 | 1.15 | 山口城施工開始 |
| | | 7.19 | 禁門の変 |
| | | 7.22 | 征長勅令 |
| | | 8.5・6 | 四国艦隊下関砲撃事件 |
| | | 10.16 | 山口城竣工 |
| | | 11月 | 征長講和のため山口城破却 |
| 慶応元 | 1865 | 4.8 | 山口城修築命令 |
| | | 4.12 | 幕府による長州再征令 |
| | | 6.7 | 四境戦争(～9.19) |
| 慶応2 | 1866 | 5.15 | 山口城修築完成 |
| 明治2 | 1869 | 6.17 | 版籍奉還 |
| | | 8.13 | 「御屋形上棟祭式」挙行 |
| | | 9.12 | 「御屋形」を「山口藩議事館」に改称 |
| 明治3 | 1870 | 4.20 | 「山口藩議事館」を「政事堂」に改称 |
| | | 10.8 | 「政事堂」を「藩庁」に改称 |
| 明治4 | 1871 | 7.14 | 廃藩置県 |
| | | 7.28 | 「藩庁」を「県庁」に改称 |
| 大正5 | 1916 | | 山口旧県庁舎完成(大正2年起工、旧藩庁建築は解体) |

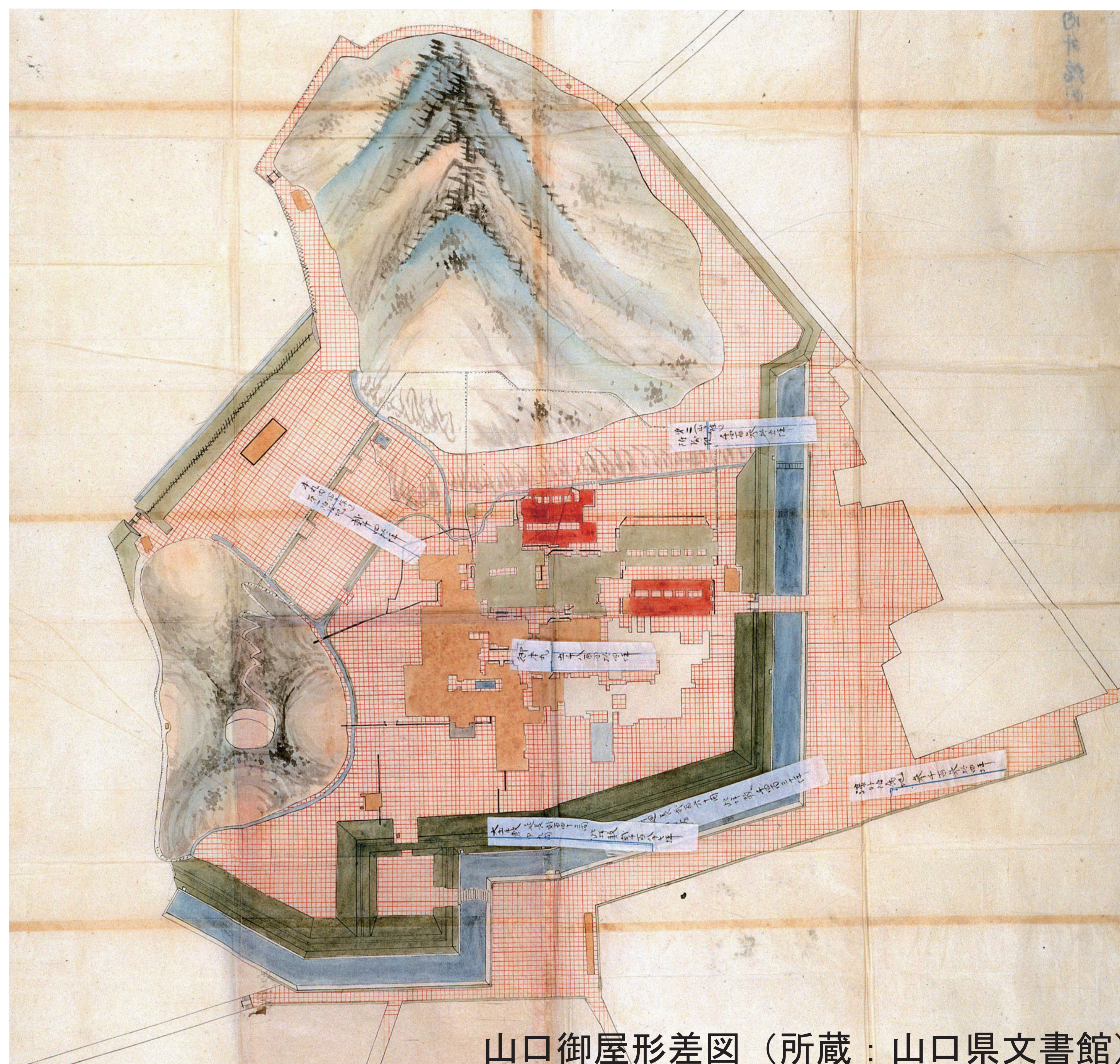


現地説明会
(8月5日)

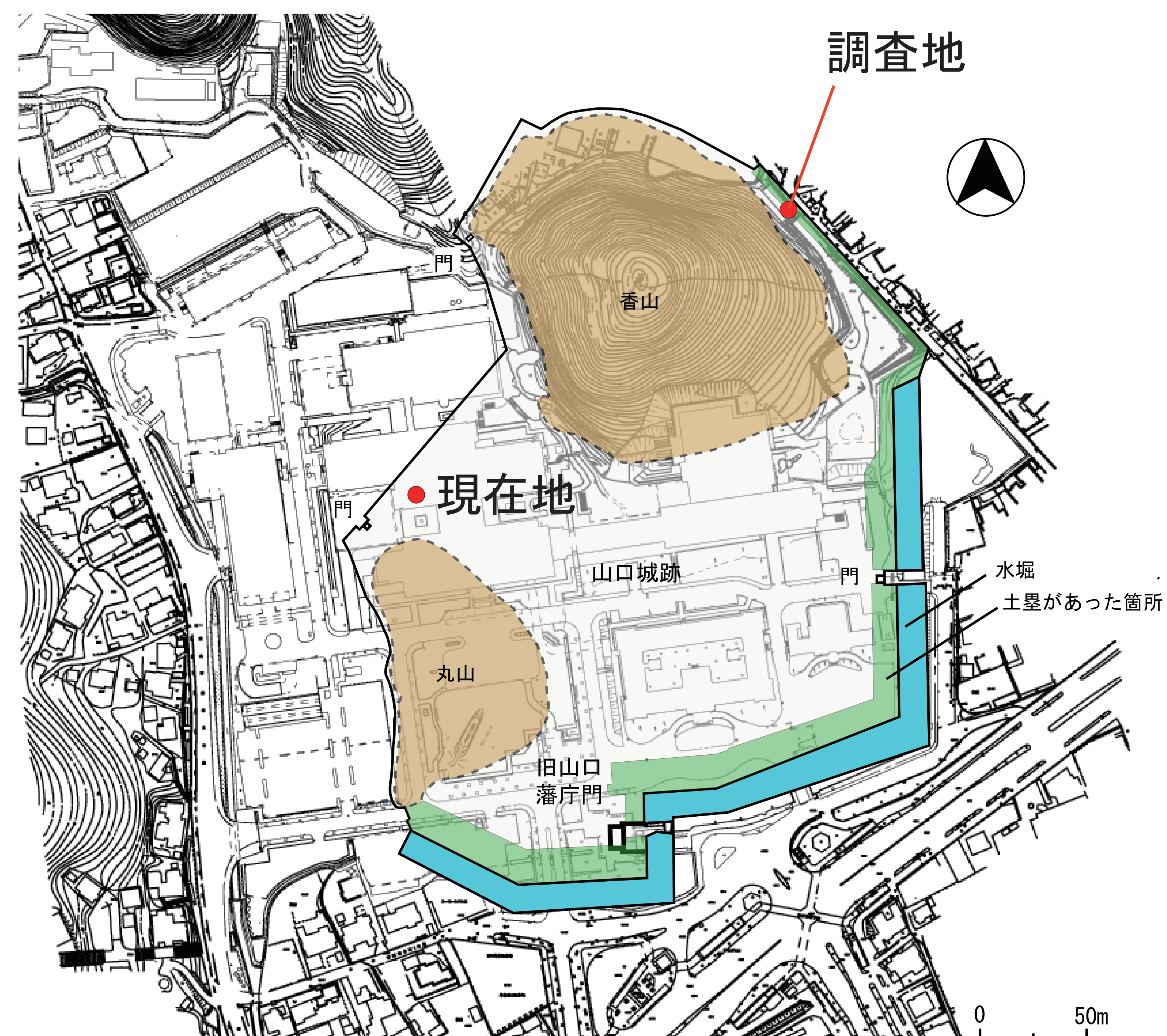
2. 山口城跡とは！？

山口城跡は、萩藩主毛利敬親が、幕末の元治元年（1864）10月に萩城（萩市）に代わる新たな居城として建設した城の跡です。

史料では「山口新屋形」と表記され、地域の歴史では「山口御屋形」と呼ばれることも多いです。「屋形」という平和的な名称とは裏腹に、その実態は、大砲による砲撃戦を想定した西洋式城郭であったと考えられています。城跡の範囲は、現在の山口県庁とほぼ同じです。



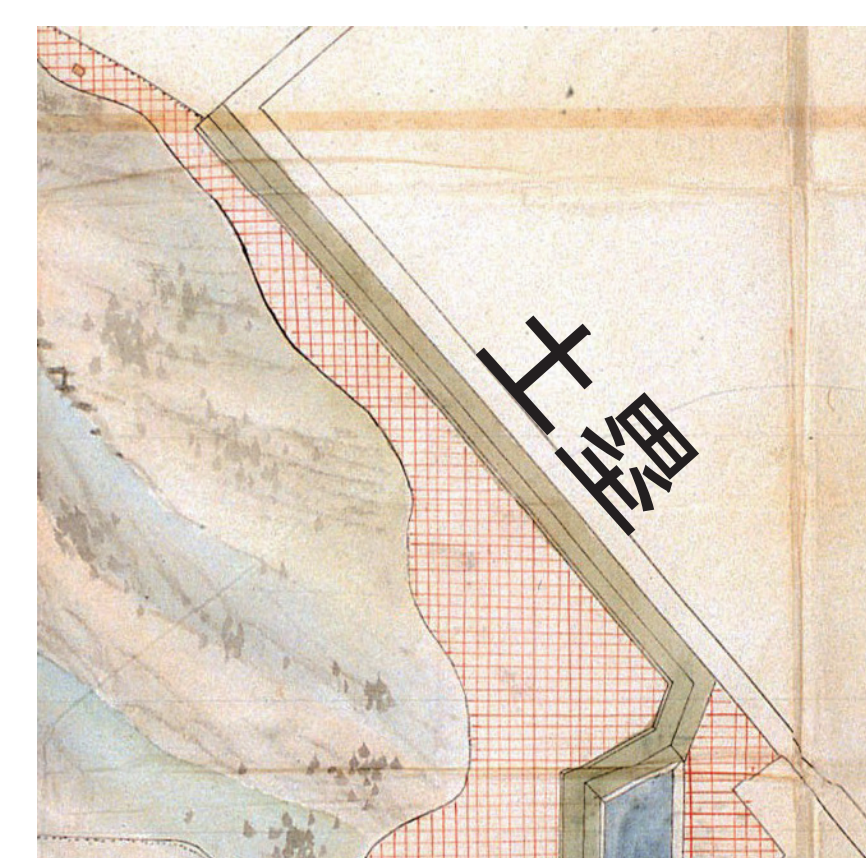
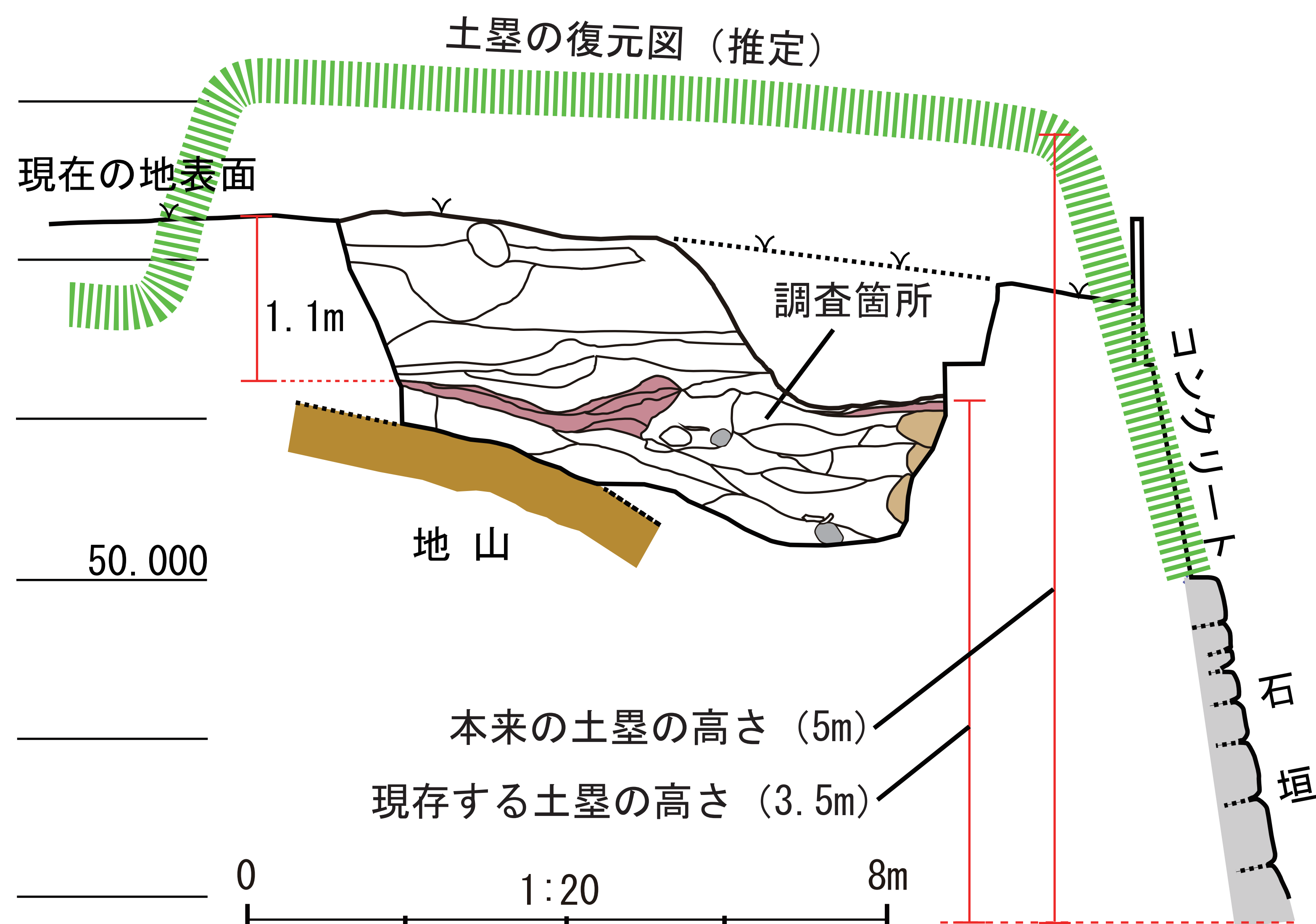
山口御屋形差図（所蔵：山口県文書館）



3. 発掘調査の成果 【埋没土塁の発見】

「^{どるい}土塁」とは、堤防のような盛り土による防壁です。調査地は、幕末の絵図（山口御屋形差図）には土塁が描かれていますが、現状は県庁内の遊歩道。土塁は全く見当たりません。

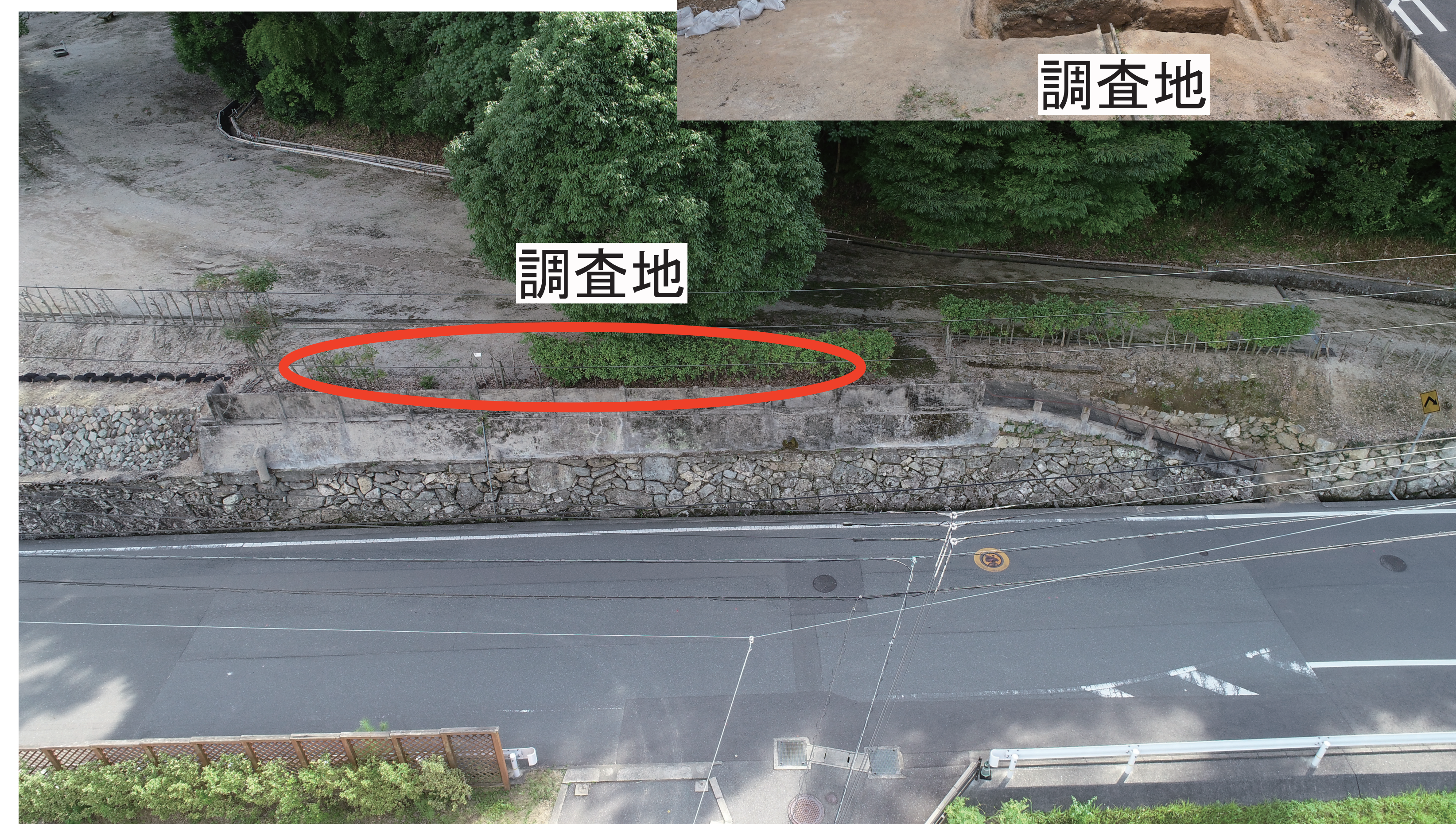
発掘調査により、地下1.1mで土を積み上げた土木工事の痕跡が見つかり、絵図にある土塁の一部が埋没していることがわかりました。確認できた土塁の残存部は、高さ30～85cmですが、調査で掘削していない箇所を含めれば、高さ約3.5mの部分が残っていると考えられます。また、本来の土塁総高さは約5mに及ぶことが想定されています。



山口御屋形差図（部分）



調査地



調査地

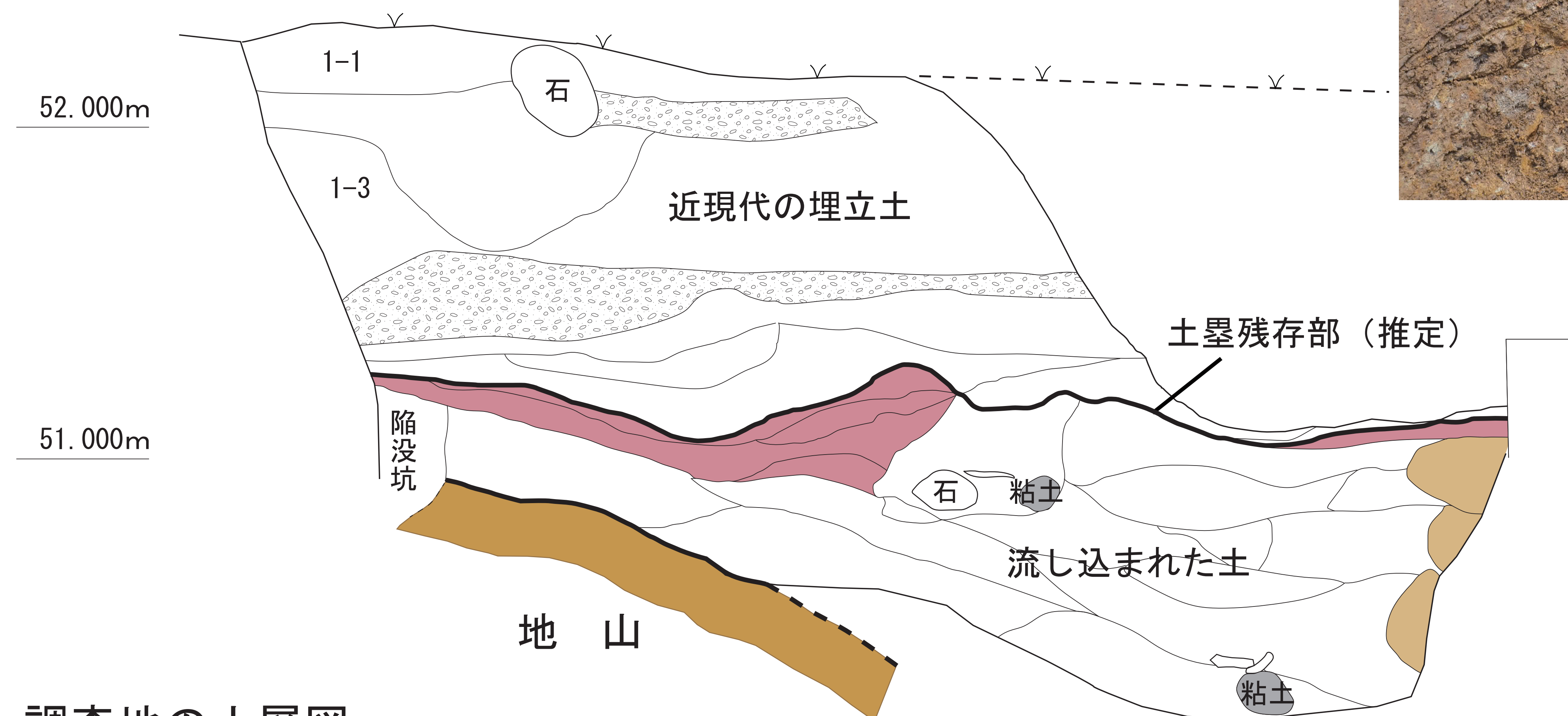
4. 発掘調査の成果 【幕末の土木技術の解明】

土塁の土層を見ると、土のうサイズの土の塊や突き固めたような箇所がありました。このことから、おおよそ次の①～⑤の手順で土塁が作られたことを推定できます。

- ① 基盤造成（地ならし）
- ② 土のう状の土塊（土を詰めた俵か）を積み上げ、区画を作る
- ③ 土を流し込む
- ④ 一定の高さに盛り土が達したら転圧する
- ⑤ ②～④の工程を繰り返す



調査地の土層



調査地の土層図

- 土のう状の土塊
- 転圧の痕跡

0 1m